



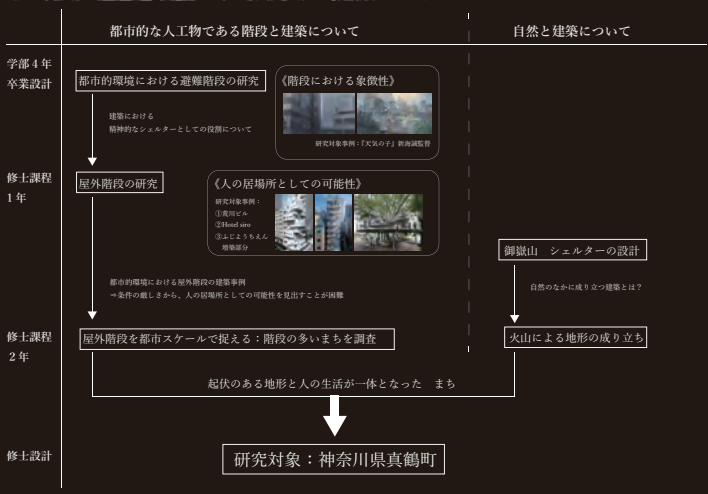
真鶴の

人と海と大地の結節点をつなぐ

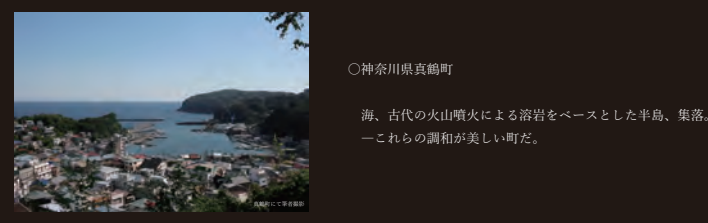
自然の恵みを受け止める建築の提案 一まつり × 魚市場



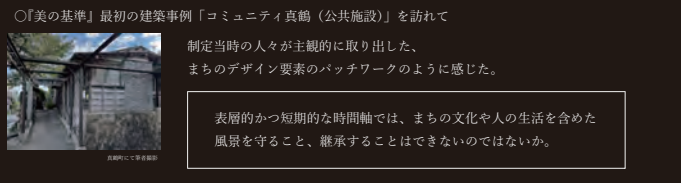
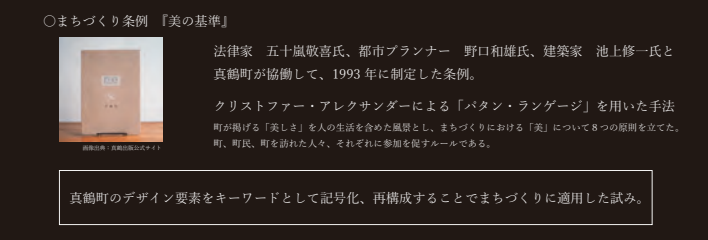
01_ 修士設計に至る経緯



02_ 研究背景



02_ 研究背景



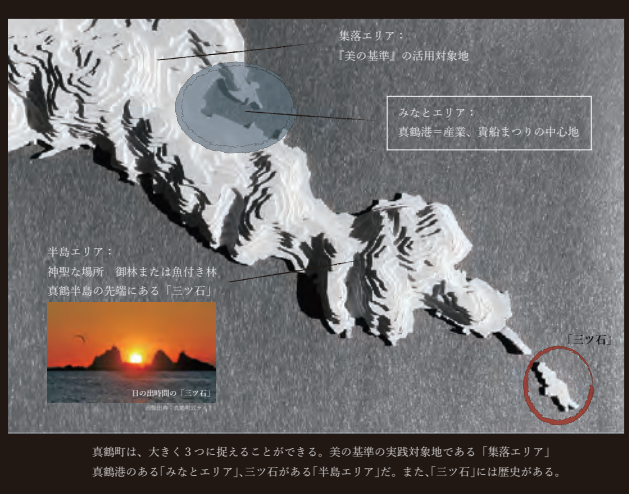
03_ 目的

『美の基準』とは別の文脈として、古代からの長期的な時間、空間軸を用いた建築の提案を試みる。

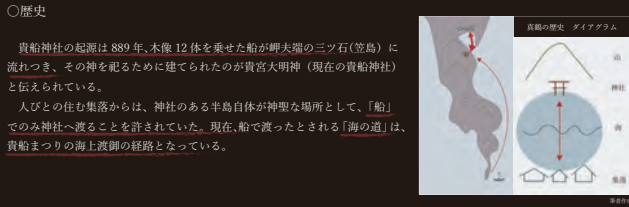
真鶴の歴史、地形の意味、貴船まつりの文化、漁業中心の生活風景を守り、継承することを目的とする。

次章 真鶴の現状調査 から得た「発見」をもとに「設計提案」を行う。

04_ 真鶴の現状調査



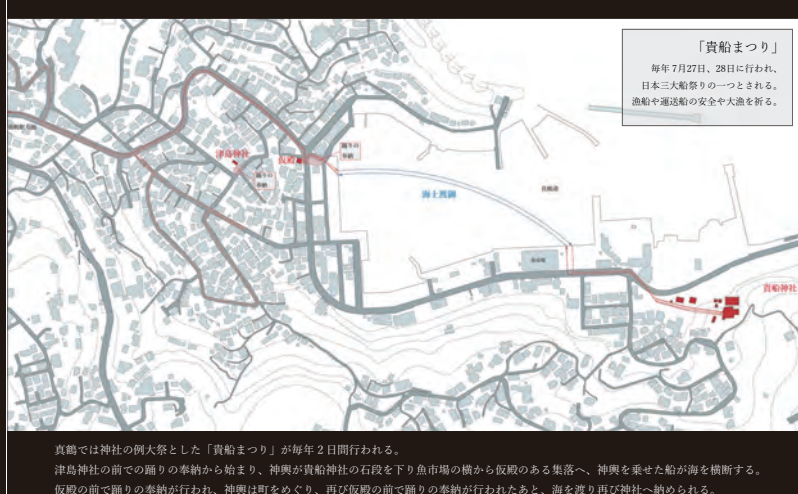
04_ 真鶴の現状調査



04_ 真鶴の現状調査



04_ 真鶴の現状調査



04_ 真鶴の現状調査



04_ 真鶴の現状調査

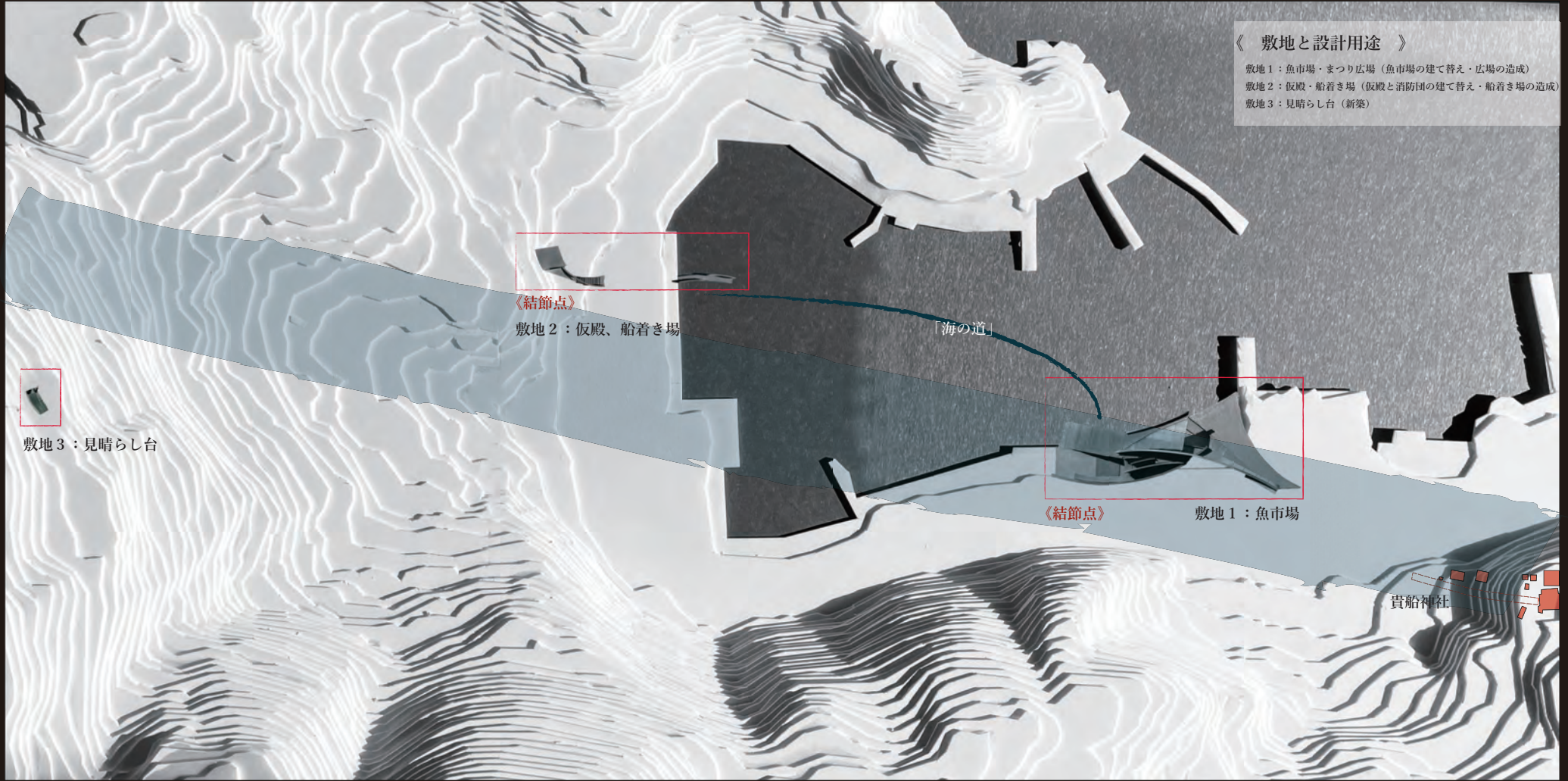


05_ 現状調査から得た発見

- 【発見 その1】 集落から神社への「海の道」は、神聖な半島への意識そのものであったこと。 また貴船神社の参道は、かつて境内から鳥居の目の前にある海岸へとづく「海へのびる参道」であったこと。
- 【発見 その2】 真鶴のまつりと漁業という地域資産は、遺し継承する価値あるもの。時代の変化に伴い縮小化している状況があるが、これらはまちの風景として点在している。
- 【発見 その3】 まつりの海上渡御における海と陸の境目の場所を「結節点」とする。 → 「まつり」と「漁業中心の生活」が交わる「真鶴の人と海と大地の結節点」となっている。「まつり」と「魚市場」の共通点：自然の恵みを受け止める場所

06_ 設計提案 — 真鶴を広域的に捉えた設計提案について

「結節点」に建築をつくり、これらの点と点をつなぐことで
真鶴の原点、自然の恵みへの意識を再構築する



《 敷地と設計用途 》
 敷地1：魚市場・まつり広場（魚市場の建て替え・広場の造成）
 敷地2：仮殿・船着き場（仮殿と消防団の建て替え・船着き場の造成）
 敷地3：見晴らし台（新築）

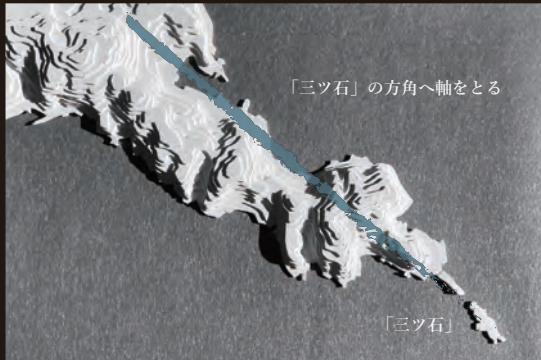
敷地3：見晴らし台

《結節点》
 敷地2：仮殿、船着き場

《結節点》
 敷地1：魚市場

貴船神社

「まつり」と「魚市場」を掛け合わせた建築（敷地1）を中心に、3つの敷地を選定した。「結節点」に建築をつくり、これらの点と点を繋ぐことで、真鶴の原点、自然の恵みへの意識を再構築する。具体的には、それぞれの場所性に基づき、魚市場、仮殿を設計し、それぞれに船着き場を設け、「海の道」でつなぐ。高台にある敷地3は、これら全体を俯瞰する視点場として、見晴らし台を設計した。



提案1：
 原点「三ツ石」への意識を再構築する
 ⇒「海の道」日常的につなぐ敷地1,2の「船着き場」
 三ツ石の方角へ軸をとった敷地1の「海にのびる大階段」

提案2：
 まちに点在する「まつり」と「漁業の生活」を顕在化させる
 ⇒まつり：敷地2「仮殿」
 漁業中心の生活：敷地3「見晴らし台」

提案3：
 自然の恵みを受け止める場所＝「まつり」と「魚市場」
 ⇒敷地1「まつり」と「魚市場」をかけた建築

○デザインモチーフ

さまざまな文脈が交わる「結節点」に建築をつくる

立面ダイアグラム

「大階段」
 ・貴船神社の石段による象徴性
 ・起伏のある地形の読み解き

「R壁」
 ・火山噴火に由来する等高線との対応
 ・多様な人の行動を流動的におけるつなげること

平面ダイアグラム

○平面計画 設計プロセス

07_敷地1について

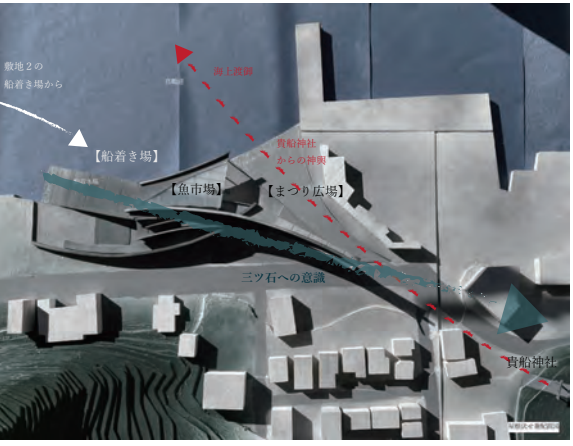
魚市場、船着き場

○敷地1 魚市場の変遷



この敷地は、背後に貴船神社があることから「宮の前」と呼ばれている。かつてこの場所には漁師小屋があった。その後、港の整備とともに魚市場が完成した。しかし、関東大震災により破壊し、被災後新たに建てられた魚市場、さらに現在は観光用として再度建て替えられた結果、1階は魚市場、2階はレストランとなっている。

○「魚市場」と「まつり」の交点 配置計画

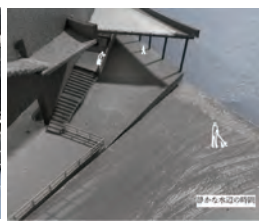
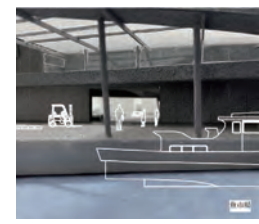
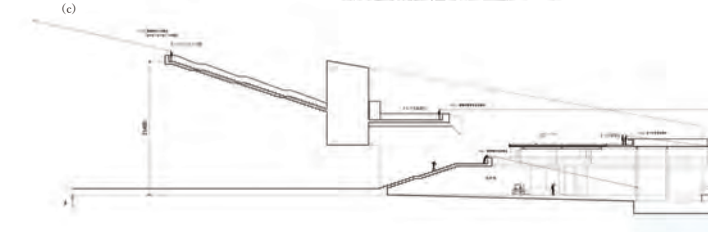
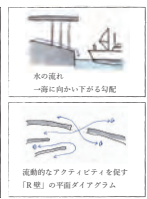


《場所性》
 ・背後にある貴船神社からの神輿が入水する場所であること
 ・魚市場
 ・船が着く場所
 ・貴船まつりの日、海上渡御のようすを見る場所となる

《提案》
 ・海上渡御まで神輿が通り抜ける「まつり広場」の提案
 ・三ツ石の方角へ伸びる大階段 → 真鶴の原点への意識
 ・魚市場の整備
 ・貴船まつりの船の保管・展示

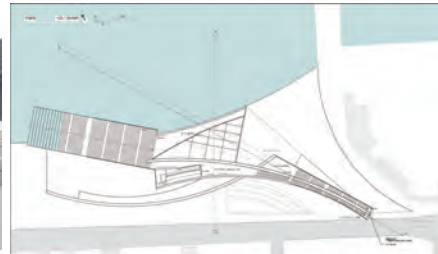
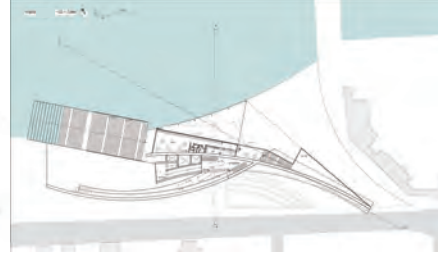
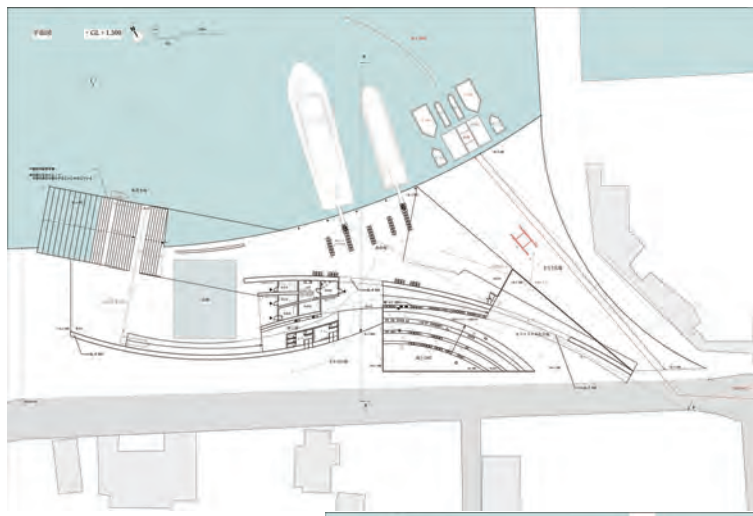


《計画》
 ・魚市場
 ・船着き場
 ・広場
 (まつり/さかな/まつり × さかな)
 ・食堂
 ・まつり船の保管庫/展示
 ・展望台
 (まつり/まなづる/まつりはじまりの間)



展望台
 (a) 海上渡御を見る視点
 (b) 集落への視点
 (c) 貴船神社と三ツ石の方角への視点

A-A' 断面図



08_敷地2について

仮殿、船着き場

○現状の仮殿



まつりの日、一時的に神輿を納める「仮殿」

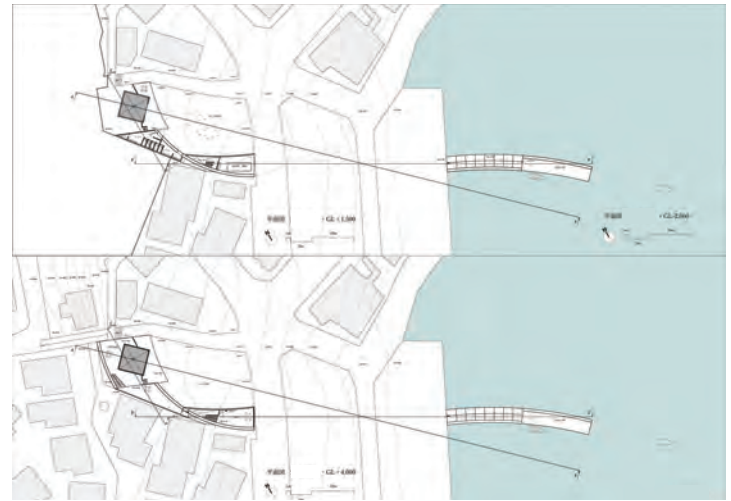
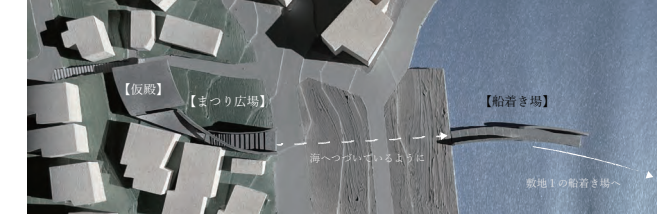


「仮殿」の前で行われるまつりの奉納
 前面道路を通行止めにし、車道の上で行う

○提案 仮殿と通りの奉納の位置関係

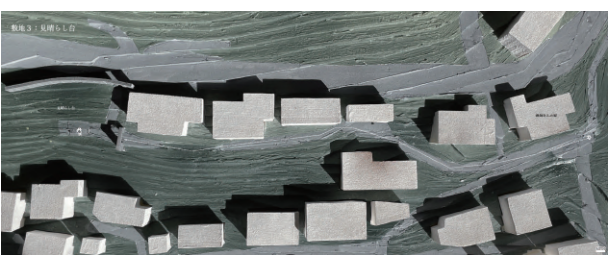


○配置計画



09_敷地3について

見晴らし台



○高台の漁師の家



○提案
 敷地として選定した場所：景観と漁師が日常的に港を見渡す視点場
 ⇒真鶴の漁業の生活風景として顕在化させる
 ⇒最頂部の漁師住宅のある視点場を活かし地形に沿った「見晴らし台」

